

(6) カ キ

主要病害虫別防除方法

| 病害虫名 (病原体) | 農薬によらない防除 | 農薬による防除 |
|---|---|---|
| うどんこ病 (<i>Phyllactinia</i>) | ①発病した園は、落葉をできるだけ早く集めて適切に処分する。 ②黒粒状の子のう殻が付着した枝は、剪定時に除去し、適切に処分する。 | ①4月中旬～6月下旬及び7月下旬～9月上旬に農薬を散布する。 (例) イミノクタジナルベシル酸塩水和剤 (バルコート水和剤) テブコナゾール水和剤 (オンリーワンフロアブル) ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤 (ナリア WDG) ピリベンカルブ水和剤 (ファンタジスタ顆粒水和剤) 有機銅水和剤 (キノンドーフロアブル、オキシンドー水和剤 80) |
| | 【参考事項】 子のう殻は罹病葉上に形成されるが、葉から離れて、地表面や枝、幹に付着して越冬する。 | |
| 落葉病 円星落葉病 (<i>Mycosphaerella</i>) 角斑落葉病 (<i>Cercospora</i>) | ①落葉を適切に処分する。 ②密植園は間伐する。 | ①5月上旬～7月中旬に農薬を散布する。 (例) イミノクタジナルベシル酸塩水和剤 (バルコート水和剤) テブコナゾール・トリフロキシストロビン水和剤 (ナティーボフロアブル) テブコナゾール水和剤 (オンリーワンフロアブル) ピリベンカルブ水和剤 (ファンタジスタ顆粒水和剤) ペンチオピラド水和剤 (フルーツセイバー) マンゼブ水和剤 (ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤) 有機銅水和剤 (キノンドーフロアブル、オキシンドー水和剤 80) キャブタン・ペンチオピラド水和剤 (フルーツガード WDG) |
| | 【参考事項】 落葉の病斑組織内で菌糸や菌糸塊で越冬する。樹勢の衰えた園で多発する。5月上旬～7月上旬に降雨が多い年ほど多発する。 | |
| 炭疽病 (<i>Glomerella</i>) | ①冬期剪定時に病枝を切り取る。 ②発病期にも病枝や病果を取り除く。 ③密植園は病気がでやすいので間伐する。 ④防風林、防風垣を設置する。 | ①6～10月に農薬を散布する。 (例) キャブタン水和剤 (オーソサイド水和剤 80) テブコナゾール水和剤 (オンリーワンフロアブル) ペンチオピラド水和剤 (フルーツセイバー) マンゼブ水和剤 (ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤) 有機銅水和剤 (キノンドーフロアブル、オキシンドー水和剤 80) |
| | 【参考事項】 枝の病斑部、落葉跡、芽などに病原菌が潜在して越冬する。「富有」に発生が多い。 | |
| 黒星病 (<i>Fusicladium</i>) | ①冬期剪定時に病枝を切り取る。 | ①3月下旬に農薬を散布する。 (例) 石灰硫黄合剤 ②4月中旬～5月下旬に農薬を散布する。 (例) イミノクタジナルベシル酸塩水和剤 (バルコート水和剤) |
| | 【参考事項】 枝の病斑部に菌糸で越冬する。「次郎」に発生が多い。 | |
| 灰色かび病 (<i>Botrytis</i>) | ①落葉を処分する。 ②密植園は間伐する。 ③排水を良好にする。 | ①5～6月の発生期に農薬を散布する。 (例) ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤 (ゲッター水和剤) キャブタン・ペンチオピラド水和剤 (フルーツガード WDG) |
| | 【参考事項】 落葉上で菌糸や菌核の形で越冬する。春に分生子を形成し、風や降雨によって飛散する。 | |
| カキクダアザミウマ | ①冬期に粗皮削りを行う。 ②被害葉 (巻葉) は、見つけ次第除去する。 ③光反射シートを樹冠下に設置して、飛来を防止する。 | ①越冬成虫の新梢への寄生時期 (4月下旬～5月下旬) 及び新成虫の発生時期 (6月中旬以降) に農薬を散布する。 (例) クロルフェナピル水和剤 (コテツフロアブル) (アザミウマ類) ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤) (アザミウマ類) |
| | 【参考事項】 成虫で越冬 (粗皮間隙) する。年1回発生する。 | |
| チャノキイロアザミウマ | ①不定芽の伸長した柔らかい葉での増殖が多いので、それらを残さない。 ②冬期に粗皮削りを行う。 | ①第1世代成虫発生ピーク (5月中旬～下旬) 及び第2世代成虫発生ピーク (6月中旬) に農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤 (モスピラン顆粒水溶剤) (アザミウマ類) クロルフェナピル水和剤 (コテツフロアブル) (アザミウマ類) スピネトラム水和剤 (ディアナ WDG) (アザミウマ類) ピリフルキナズン水和剤 (コルト顆粒水和剤) |
| | 【参考事項】 成虫又は蛹で粗皮下、落葉下、浅い土壤中で越冬する。年7～8回発生する。ほ場近くのチャヤイヌマキなどは寄主植物となる。 | |

| 病害虫名 (病原体) | 農薬によらない防除 | 農薬による防除 |
|---------------|--|---|
| カメムシ類 | ①防虫ネット（4mm 目合い）で園全体を被覆する。 ②チャバネアオカメムシに対して黄色蛍光灯は忌避効果がある。 ③下草や周囲の雑草管理を徹底する。 | ①6月中旬から収穫時期まで加害するが、加害時期は年により変動が大きいので、園内への飛来状況に応じて農薬を散布する。 (例) クロラントラニプロロール・ジノテフラン水和剤（キックオフ顆粒水和剤） ジノテフラン水溶剤（アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤） シペルメトリン水和剤（アグロスリン水和剤） MEP 乳剤（スミチオン乳剤） シクラニプロロール液剤（テッパン液剤） |
| | 【参考事項】 成虫で越冬する。幼虫はスギ、ヒノキなどで育ち、成虫が果樹園に移動して加害する。越冬成虫が多い年は、早期落果が多くなる。 合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤の連続散布はコナカイガラムシ類の発生を助長しやすいので、カメムシ類の飛来が少ない場合は控える。 | |
| フジコナカイガラムシ | ①バンド誘殺を行う。 ②冬期にマシン油乳剤を散布する前に粗皮削りを行う。 | ①発芽前に農薬を散布する。 (例) 石灰硫黄合剤（落葉果樹）（カイガラムシ類） ②発芽前～発芽期に、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する。 (例) ジノテフラン水溶剤（アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤）（コナカイガラムシ類） ③4月中旬～下旬（越冬幼虫）、5月下旬～6月上旬（第1世代1齢幼虫）に、農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤）（カイガラムシ類） クロラントラニプロロール・ジノテフラン水和剤（キックオフ顆粒水和剤）（コナカイガラムシ類） スピロテトラマト水和剤（モベントフロアブル）（カイガラムシ類） ピリフルキナゾン水和剤（コルト顆粒水和剤）（カイガラムシ類） MEP 水和剤（スミチオン乳剤） スルホキサフロル水和剤（トランスフォームフロアブル）（カイガラムシ類） ④発芽1か月以上前までに農薬を散布する。 (例) マシン油乳剤（アタックオイル、ハーベストオイル） （フジコナカイガラムシ、カイガラムシ類） |
| | 【参考事項】 主に2齢幼虫が枝の粗皮の間隙、芽の鱗片中で越冬する。年3回発生する。 第2世代以降は殺虫剤散布の効果が低いので、天敵の温存に努める | |
| オオワタコナカイガラムシ | ①バンド誘殺を行う。 ②冬期に粗皮削りを行い、ほ場を清潔にする。 | ①幼虫発生期の3月下旬～4月下旬に農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤）（カイガラムシ類） アラニカルブ水和剤（オリオン水和剤40）（カイガラムシ類） |
| | 【参考事項】 3齢幼虫で越冬する。年1回発生する。 | |
| ツノロウムシ | ①剪定時に除去する。 | ①幼虫発生期に農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤）（カイガラムシ類） |
| | 【参考事項】 雌が成虫態で1～2年生枝で越冬する。年1回発生する。 | |
| カキノヘタムシガ | ①9月上旬～中旬頃に、古布などを枝に巻き付け、バンド誘殺を行う。 ②冬期に粗皮削りを行い、ほ場を清潔にする。 | ①6月上旬～中旬、7月下旬～8月上旬に農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤（モスピラン顆粒水溶剤） カルタップ水溶剤（パダン SG 水溶剤） クロラントラニプロロール水和剤（サムコルフロアブル 10） フルベンジアミド水和剤（フェニックスフロアブル） MEP 水和剤（スミチオン乳剤） |
| | 【参考事項】 粗皮の下や割れ目の間に繭を作り、前蛹で越冬する。年2回発生する。 | |
| カキホソガ | ①寄生蜂や捕食性天敵を保護し、密度抑制に利用する。 | ①6～8月に農薬を散布する。 (例) MEP 乳剤（スミチオン乳剤） カルタップ水溶剤（パダン SG 水溶剤） |
| | 【参考事項】 成虫で越冬する。年5回発生する。 | |

| 病害虫名 (病原体) | 農薬によらない防除 | 農薬による防除 |
|---------------|--|--|
| ハマキムシ類 | ①寄生蜂や捕食性天敵を保護し、密度抑制に利用する。 | ①4月中旬、5月下旬～6月中旬、7月上旬～中旬、8月中旬～下旬、9月下旬～10月上旬の幼虫加害期に農薬を散布する。（収穫前日数に注意） （例） クロラントラニプロール水和剤（サムコフロアブル 10） クロルフルアズロン水和剤（アタブロン SC） スピネトラム水和剤（ディアナ WDG） フルベンジアミド水和剤（フェニックスフロアブル） |
| | 【参考事項】 幼虫で越冬する。年4～5回発生する。 9月以降、農薬散布終了後に発生すると被害が大きいため、5回発生年は秋期に防除を行う。 合成ピレスロイド剤の連続散布はコナカイガラムシ類の発生を助長しやすいので控える。 | |
| イラガ類 | ①冬期に粗皮削りを行う。繭をつぶす。繭を見つけ、捕殺する。 | ①若齢幼虫時に集合性が強いので、分散前に農薬を散布する。 （例） フルベンジアミド水和剤（フェニックスフロアブル） MEP 水和剤（スミチオン乳剤） |
| | 【参考事項】 枝、幹に前蛹（繭）で越冬する。通常は年2回発生する。 イラガ、ヒロヘリアオイラガは樹上の繭で、ヒメクサイラガは土中の繭で越冬する。 | |